

四字熟語で、本の紹介 p. 1

はまっ子読書の日 p. 2~3

各館の行事～やっぱり読書の秋 p. 4~7

@Lib ブックコラム「親子作家・夫婦作家」 p. 7

ぐるっとYOKOHAMA 図書館めぐり第15回栄図書館
／お知らせ p. 8

ホームページ
http://www.city.yokohama.lg.jp /kyoiku/library/

2011年11月号

平成23年6月、横浜市立図書館は、創立90周年を迎えました。

四字熟語で、本の紹介

10月27日から11月9日までは読書週間です。今回の特集では、読書の楽しさを改めて実感できる本をご紹介します。民俗学の名著から人間のドラマまで、この秋は図書館で活字の喜びにひたってみませんか？

おんこちしん
温故知新 **価値と意義の再発見**

『忘れられた日本人』

宮本常一 岩波書店（岩波文庫）

著者が昭和14年から日本各地の老人に聞き書きをしたフィールドワークの記録。時間の流れが今よりおおらかであったころ、人びとはどのように暮らしていたのか。



ききゅうそんぼう
危急存亡 **生き残るか、滅びるか**

『三国志演義』

羅貫中 徳間書店（徳間文庫）

相次ぐ戦乱に民は疲れ切っていた。天下統一をうたい英雄たちが立ち上がる中、軍師諸葛孔明は天下三分の計を提案する。中国を舞台にした男たちの熱きドラマ。



こうざんりゅうすい
高山流水 **絶妙の音楽、心の友**

『翼はいつまでも』

川上健一 集英社

30年前、青森の中学生で野球部員だったぼく。先生や親の理不尽な仕打ちに毎日モヤモヤがたまる一方。そんなある日ラジオから流れてきたのはビートルズ。すげえ……！こいつはいいぞ！



かんなんしんく
艱難辛苦 **苦悩の果てに選んだ道**

『月の影 影の海 上・下』

小野不由美 講談社（講談社X文庫）

見知らぬ男に異世界へ連れてこられた陽子。誰も信じられない世界で、生きるための孤独な戦いが始まる。『十二国記』シリーズ1巻目。中学生から大人まで。



いちいせんしん
一意専心 **一つのことにかける情熱**

『老人と海』

ヘミングウェイ 新潮社（新潮文庫）

不漁の続いた後、巨大なカジキマグロを釣り上げる老漁師。しかし港に帰る途中サメに襲われ、港に着いたときには獲物は見るとはならない。作者は今年没後50年。

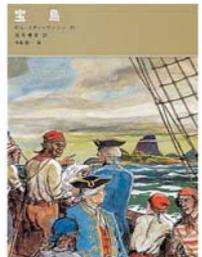


ききいっぼう
危機一髪 **髪の毛一本ほどにせまる危機**

『宝島』

スティーブンスン 福音館書店

老船乗りからジムが手に入れたのは、宝島の地図だった！船をしたって宝島に向かうジムたちだが、仲間のシルバーが裏切った。彼は海賊の船長だったのだ。小学校高学年から。



やっぱり読書の秋～市立図書館秋のキャンペーン

市立図書館18館では「読書の秋」にちなみ、講演会や本の展示、おはなし会など趣向をこらした催しを行います。各イベントの開催内容などは、p. 2-7をご覧ください。
〔開催期間〕10月27日(木)～11月30日(水) 〔対象〕子ども～大人

やっぱり読書の秋

